

実践報告

コロナ禍における初年次教育の実施 ～アカデミックリテラシーの場合～

加藤精一

兵庫医療大学共通教育センター

Implementation of First-Year Experience in COVID-19 Calamity

Seiichi KATO

General Education Center, Hyogo University of Health Sciences

抄 録

アカデミックリテラシーは兵庫医療大学において、「大学で学ぶ」ことと「医療人としての基本的な態度を学ぶ」ことを目的として設置された初年次教育の科目であり、すべての学部学生が入学後最初に受講する。2020年度はコロナ禍によって、全面的にオンライン講義で行うことになり、こうした初年次教育の目的を果たすために様々な配慮が必要になった。こうした実施の状況と改めて明らかになった初年次教育の役割について報告する。なお本稿は、兵庫医療大学において2020年度末に行われた、全学FDワークショップで報告した内容をもとに執筆したものである。

キーワード：初年次教育

I はじめに

2020年度は前年度末からの新型コロナウイルスによる災禍のために、突然ほぼすべての講義がオンラインで行われることとなった。これまで行ったことのない実施方法であり、どの講義においても対面で行う場合と遜色ない内容を準備するために、限られた期間に様々な検討をする必要があった。著者の担当する初年次教育の科目である「アカデミックリテラシー」は、大学に通うのが初めてであるという学生が対象のほとんどであり、「他の講義を受ける準備をするための講義」という性格上、通常はどの講義よりも早く開始され、

大学と学生の連絡手段の構築から、施設の利用方法などについても伝えている科目である。しかし、それらが十分にできない状況が発生したことで、科目の設置目的以外にこの科目が果たす役割について再確認することとなった。本報告では、2020年度の科目の実施状況に加えて、再確認した役割についても報告する。

II アカデミックリテラシーの概要

1. アカデミックリテラシーのスケジュール
「アカデミックリテラシー」という語はアカデミック（学問の）リテラシー（読み書き能力）を意図した

造語であるが、多くの大学で初年次教育として設定されている科目の名称として使用されている。本学における「アカデミックリテラシー」という名の科目も、2007年度に本学が設置されたあと、2013年度に初めて行われたカリキュラム改訂時に新しく設定された科目であり、1年生の前期に「大学で学ぶ」ことと「医療人としての基本的な態度を学ぶ」ことを目的としている。本学の3学部1年生全員が必修で、同時に学ぶ学部混成の科目という特徴も持っている。学生は5、6名の学部混成の60グループに分かれ、講義初日から行動を共にする。

表1に通常期のスケジュールの例として2019年度におけるアカデミックリテラシーのスケジュールを示す。

本学では入学式が4/5に挙行されるが、通常その翌日から日曜日を除く3日間で、図書館、情報処理演習室の利用方法、大学との連絡手段である電子メール、本学で採用している授業のコース管理システム(Course Management System)である Moodle の使い方、ノートの取り方、文章読解、レポート作成に必要な Microsoft Word の使い方、さらにはコミュニケーションの基本である挨拶やマナーを外部のマナー講師から学び、2019年度は教育のための科学研究所で開発されたリーディングスキルテストも実施して、入学時の読解力の客観的な評価を学生個人が確認した。最初の3日間のあとには、4、5月にクリティカルシンキング、ノートの取り方、レポートの書き方、Microsoft PowerPoint を用いた資料の作成方法、プレゼンテーションについて学び、講義を受ける準備段階での知識定着のまとめとしてテストが行われる。後半の6、7月には、講義の形式でたびたび採用されている Problem Based Learning (以下 PBL) の流れを身に付けてもらうため、身近な話題を通してグループで取り組んでもらう。本学では6月に Early Clinical Exposure (以下 ECE) を同法人の病院にて実施させていただいており、6月は半数の30グループごと2週間交代で PBL と ECE を経験することになっている。

2. アカデミックリテラシーの運営

アカデミックリテラシーは、新入生全員を一度に対象として、内容も多岐にわたるため、他の科目とは異なり、本学の共通教育センター内に委員会組織を作って運営を行っている。具体的には科目の責任者を含む4名の運営委員を置き、運営委員3名がそれぞれ情報班、スタディスキルズ班、PBL 班の班長についており、

表1. 2019年度のスケジュール

コマ	日	時限	授業内容
1	2019.4.6(土)	1	イントロダクション
2	2019.4.6	2	挨拶、マナー
3	2019.4.6	3	チームビルディング 情報
4	2019.4.6	4	チームビルディング 情報
5	2019.4.8(月)	1	図書館 リーディングスキルテスト
6	2019.4.8	2	図書館 リーディングスキルテスト
7	2019.4.8	3	ノートテイク 情報
8	2019.4.8	4	ノートテイク 情報
9	2019.4.9(火)	1	文章読解 word(1)
10	2019.4.9	2	文章読解 word(2)
11	2019.4.9	3	レポートの書き方(1) word(2)
12	2019.4.9	4	レポートの書き方(1) word(2)
13	2019.4.12(以降金)	3	レポートの書き方(2)
14	2019.4.12	4	講演(性感染症)
15	2019.4.26	3	クリティカルシンキング PowerPoint(1)
16	2019.4.26	4	クリティカルシンキング PowerPoint(1)
17	2019.5.17	3	PBL・プレゼンテーション PowerPoint(2)
18	2019.5.17	4	PBL・プレゼンテーション PowerPoint(2)
19	2019.5.31	1	中間テスト
20	2019.6.7	3	PBL1-1
21	2019.6.7	4	PBL1-2
22	2019.6.14	3	PBL1-3
23	2019.6.14	4	PBL1-4
20	2019.6.21	3	PBL2-1
21	2019.6.21	4	PBL2-2
22	2019.6.28	3	PBL2-3
23	2019.6.28	4	PBL2-4
24	2019.7.5	3	PBL3-1
25	2019.7.5	4	PBL3-2
26	2019.7.12	3	PBL3-3(薬患者講演会)
27	2019.7.12	4	PBL3-4
28	2019.7.19	3	発表全
29	2019.7.19	4	発表会
30	2019.7.26	4	まとめ

それぞれの班には一部の共通教育センター教員がメンバーとなっており、前半の5月末までは主に共通教育センターの教員で運営される。運営委員と各班は運営の計画や資料作成、学生への連絡などの業務を担っている。また、トピックによって、図書館の職員、キャリアデザインセンターの職員、3学部の一部の教員に加わっていただいている。

Ⅲ 2020年度の実施状況

1. 2020年度のスケジュール

表2に2020年度のスケジュールを示す。2020年度は、入学式はなく、講義がオンライン講義へと変更になったためにすべての講義で準備期間が必要となり、講義の開始日が4月中旬にずれただけ、全体の講義スケジュールの関係上、アカデミックリテラシーよりも先に実施される講義が発生した。前年から大きな変更が必要であったのは、(1) 挨拶・マナー (2) チームビルディング (3) リーディングスキルテスト (4) 薬害講演 (5) PBLの5つである。変更が必要になった理由は、(1)、(4) は学外からの講師を招くことができなくなったこと、(2) の実施には学生の登校が前提であったこと、(3) の実施にはネットワーク環境とPCが必要であるが、学生にPCを使用してもらう情報処理演習室がコロナ禍での制限により使用禁止になったことである。(2)、(3) は完全に実施ができなかったこととなったが、(1) は教員で対応し、(4) は薬害についてPBLで取り上げることとした。(5) のPBLについては、対面で行うはずのグループワークをオンラインで行うという初めての試みとなったため、6月をオンラインミーティングに使用することとなったGoogle Meetに慣れてもらうサポート期間と位置づけ、通常30グループごと2週間交代で行っていた6月のスケジュールはすべての学生が同時進行で受講することとした。第1週目にオンラインミーティングについて説明し、Google Meetについて学んでもらい、2～4週目にオンラインミーティングに慣れながらPBLの流れを学んでもらった。並行してPowerPointによる動画の作成方法についても学んでもらい、7月のPBLで行っていた発表会はグループで作成した発表動画をGoogleドライブによるファイル共有を用いて提出してもらい、それを評価する形で行った。また、5/22に予定されていた中間テストは定期試験の対面実施のために繰り延べになっていたが、最終的に試験のオンライン実施が決定され8/14に実施した。

2. 運営上起きた問題と対応

対面講義がなくなったことで、(1) 学生への連絡手段の構築と、オンライン講義で全面的に利用されることになった (2) Moodleへのアクセスの周知方法がまず課題になった。

(1) の学生への連絡手段については、大学で発行している学生用メールアドレスを用いて学生が大学からの電子メールを読むことができるようにすることがアカデミックリテラシーの最初の使命であるが、大学に来ない学生に電子メールの使い方を教える手段はなく、電子メールで採用しているGmailの設定マニュアルに従って学生に設定してもらうほかなかった。対面講義がなくなったが、教科書を受け取るための唯一の登校日が設定されたため、Gmailの設定方法についてのマニュアルと、学内の講義で採用されていたMoodleのURLにアクセスできるQRコードを印刷し

表2. 2020年度のスケジュール

コマ	日	時限	授業内容
1	2020.4.24(金)	4	イントロダクション
2	2020.4.24	5	情報(Gmail、Moodleなど)
3	2020.4.25(土)	3	情報倫理/情報検索
4	2020.4.25	4	挨拶・マナー
5	2020.4.25	5	図書館の使い方
6	2020.5.1(金)	4	word(1)
7	2020.5.1	5	word(2)
8	2020.5.2(土)	3	excel
9	2020.5.2	4	ノートテイク
10	2020.5.2	5	文章読解1
11	2020.5.8(金)	3	文章読解2
12	2020.5.8	4	クリティカルシンキング
13	2020.5.8	5	講演(性感染症)
14	2020.5.9(土)	3	レポートの書き方(1)
15	2020.5.9	4	レポートの書き方(2)
16	2020.5.9	5	PowerPoint(1)
17	2020.5.16(土)	3	PBL・プレゼンテーション
18	2020.5.16	4	PowerPoint(2)
19	2020.5.22	4	中間テスト
20	2020.6.5(以降金)	3	PBL1-1
21	2020.6.12	3	PBL1-2
22	2020.6.19	3	PBL1-3
23	2020.6.26	3	PBL1-4
24	2020.7.3	4	PBL2-1
25	2020.7.3	5	PBL2-2
26	2020.7.10	4	PBL2-3
27	2020.7.10	5	PBL2-4
28	2020.7.17	3	発表会
29	2020.7.17	4	発表会
30	2020.7.17	5	まとめ

た表2のスケジュール表を学生に配布した。QRコードの下にはこの日に一緒に学生に手渡されていた学内情報システムの個別の認証情報を利用することも記しておいた。巷の広告にもQRコードが印刷されることが普通になっている今日では、スマートフォン等でのような情報へのアクセス方法に慣れていると考えていたが、実際早い段階からMoodleのアカデミックリテラシーのコースへのアクセスが確認できた。Gmailを学生が設定できたかどうかについては、各学部の教員が個別に学生に連絡をとって確認していただくことになり、(1)については、アカデミックリテラシーの役割を果たせなかったことになる。

(2)については、先に述べたようにアカデミックリテラシーの開始が他の講義の後になるスケジュールとなってしまうため、Moodleの使い方として用意していたコンテンツを最初に開講される講義よりも先に前倒して公開することとした。次に公開したコンテンツを講義の前に見てもらおうように学生に周知する必要があるが、これには先立ってGmailによる連絡手段が構築されていたことで、問題なく周知することができ、新入生でもスムーズにMoodleを用いて受講してもらうことができたと考える。実際、著者が作成したMoodleの使い方のコンテンツの視聴回数は1,099回(Youtubeによるデータ)であり、新入生1人あたり3回を超え、他のコンテンツより突出して多かった。

Word等のソフトウェアの課題については、大学で用意している学生用ライセンスによって自宅のPCにソフトウェアをインストールして利用してもらうこととしたが、社会的な需要の急増や、流通の問題から注文してもPCが届かず、家にPCがない学生や、使用しているOSが古く、大学で提供するソフトウェアがインストールできない事例も発生した。そうした学生においては申し出てもらったうえで、機能についてはスマートフォンやタブレット等で確認し、課題はPCを入手次第、または大学に登校できるようになってから情報処理演習室で行うということで、メ切的延長を行った。最終的には2020年度前期に学生が全員登校できるようにはならなかったため、最後まで使用できるPCが用意できなかった数名の学生のみ、登校を認めていただき、情報処理演習室での課題作成に取り組んでもらった。

3. 学生の様子

初の全面的オンライン講義となったアカデミックリテラシーにおいて、受講してくれた学生の様子がどう

であったかも記しておきたい。

2020年度には最初の3日間で行われる予定であったチームビルディングがなく、学生同士のつながりが少ないことが気がかりでいた。そのため、電子メールの回に自分のグループのメンバーに簡単な自己紹介のメールを送る課題を設定するなどし、少しでも横のつながりが発生するような仕掛けをつくったつもりであったが、当初から普段は友人同士で確認しあっているようなことについても質問するメールが昼夜問わず届くようになった。大学への入学という大きな環境の変化だけでもストレスになりうるが、加えて今回のコロナ禍による特殊な状況は、学生の生活リズムも大きく崩す要因になっていると考えられた。そのような中で、学生同士のコミュニケーションのきっかけになればと、昔の電子会議室をヒントにMoodleのコースに自由に意見交換してよいというフォーラムを作成したが、使われなかったために、大学が設定した5限の講義時間後に開くチャットルームを設置し、筆者自身もできるだけ入室するようにした。アナウンスも学生に行ったため、時折様子を見に学生が入室するので、筆者がいるときは声掛けをするということが続けたところ、会話を試みてくれる学生が出始め、学生とチャットで世間話をすることができるようになった。会話が行われていると、あとから入室した学生も発言するような形となり、学生同士でもチャットしてもらえそうな機会になっていった。学生とのやり取りで、Gmailでのグループでのやり取りなどから仲良くなり、インターネットで一緒にゲームをするなど、学生のなかでも工夫してコミュニケーションを取っている様子がわかり、学生の逞しさを感じるとともに、学生の様子を直接聞くことができる貴重な機会となった。後日のアンケートでは、「PBLで同級生と話ができてよかった」と回答する学生が多くみられ、アカデミックリテラシーが教学的な目的以外に、学生同士のコミュニケーションの機会としても役割を果たしていることがわかった。

IV まとめ

アカデミックリテラシーを設置した目的は、新入生が大学の環境に早く慣れるとともに、スムーズに講義の受講や課題の提出が行えるようにすることであるが、今回のようにその目的が脅かされる事態に直面したことで、アカデミックリテラシーが果たしている役割として特に次の3つがより明確になった。

- (1) 学生との連絡手段の構築
- (2) 受講に必要な情報システム基盤の説明
- (3) 学生同士のコミュニケーションのきっかけの設定

(1)、(2) は対面で伝えられないことで、教員学生ともに多大な労力と時間が必要となった。(3) においても、通常期の最初の3日間で見られた学生同士のコミュニケーションの大切さに気付かせてもらうきっかけになった。本稿の執筆時は2021年7月で、2021年度のアカデミックリテラシーも最後の1コマを残すのみとなっているが、2021年度は最初の3日の登校が限定的に許可された(時間数は通常期の半分)ため、2020年度の状況を踏まえ、(1)～(3)を果たすための内容を優先的に配置して実施することができた。

このような大規模な科目は、非常に多くの教職員のご理解とご協力なくしては実施が不可能である。この場をお借りして感謝する次第である。